

羽人(青銅鍍金銀)(山口コレクション)

美をつくし

vol. 199

大阪市立美術館だより
令和7年2月1日発行

MI WO TSUKUSHI
WI MO TSUKUSHI

リニューアル開館にむけて

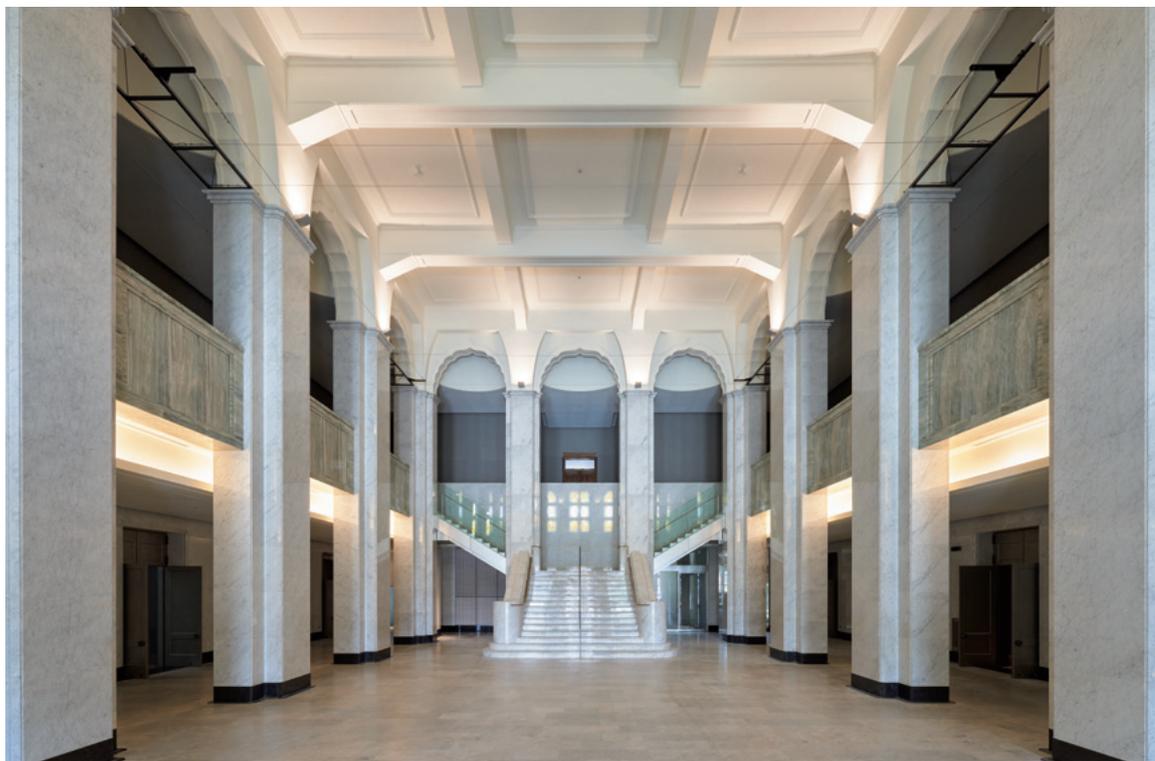
令和7年3月1日、大阪市立美術館は改修を終え皆さんのもとに戻ります。改修コンセプトの一つは「ひらかれたミュージアム」。今でも美術館は敷居が高いと言われることがあります。そこでまず入っていただくと考え、中央ホールを無料ゾーンとしました。入ってから気になる展覧会があれば、展示会場にもお越しください。「ひらかれた」にはもう一つ別の意味があります。建物の構造上、改修前は特別展の前後に休館していましたが、改修後は休館せずに展示替えができます。これにより年間300日の開館をめざします。

では展覧会はどう変わるのでしょうか。まず1階を企画展示、2階を特別展の会場とします。企画展示では世界的コレクションとして名高い中国の石仏や絵画、日本の仏教美術、絵画、工芸品などをご覧いただけます。また、特別展では西洋美術から東洋、日本美術にいたる幅広いテーマで展覧会を行います。

大正時代の末、美術館の設立準備委員会は、純粹美術（彫刻や絵画など）に応用美術（工芸品）を加え、洋の東西を問わず、古美術と新美術を展示すると決めました。一言でいえば「なんでもあり」です。100年を経て軌道修正は必要ですが、私はこの想いは大事にしています。これからも皆さまが日本美術を楽しみ、また世界の美術を旅する橋渡しとなるよう尽力いたします。



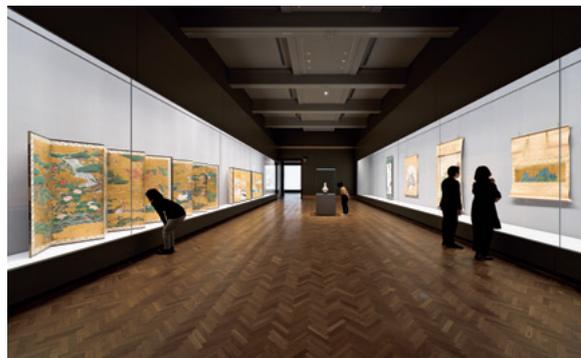
大阪市立美術館館長
内藤 栄



1



2



3

- 1 中央ホール
- 2 石仏(じゃおりうむ内)
- 3 展示室

撮影:佐々木香輔

What's New! 大阪市立美術館 名品珍品大公開!!

2025年3月1日(土)～3月30日(日)

「What's new」という言葉には、「お変わりはありませんか」という近況を尋ねる挨拶と、「最新情報」の2つの意味があります。この展覧会名にも、約2年5ヶ月に及ぶ休館期間を経て久しぶりにお目にかかる皆様へ親しみを込めたご挨拶と、リニューアルした最新の姿をお披露目するという2つの意味を込めました。

約8700件にのぼる当館のコレクションは、日本・東洋の美術を中心として絵画や書蹟、彫刻、漆工、金工、陶磁など多岐の

分野にわたります。本展では、館内の全フロアを特別展会場とし、所蔵品の中から選りすぐりの作品約250件を一室に展覧します。当館を代表する名品に加え、これまであまりご紹介する機会がなかった「珍品」ともいえる作品も織り交ぜ、大阪市立美術館の「変わらぬ魅力と新たな魅力」をお伝えします。大阪市立美術館や作品たちとの再会と新たな出会いをお楽しみください。



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10

- 1 勝部如春斎《小袖屏風虫干図巻》(部分) 江戸時代
- 2 《青磁染付 青海波宝尽文皿》 鍋島焼 江戸時代 田原コレクション
- 3 上村松園《晩秋》 昭和18年(1943) 住友コレクション
- 4 《開通褒斜道刻石》(部分) 中国・後漢時代・永和9年(66) 師古斎コレクション
- 5 佐伯祐三《教会》 大正13年(1924)
- 6 《茶吉尼天曼荼羅図》(部分) 室町時代 田万コレクション
- 7 《石造 菩薩立像頭部》[中国河南省・龍門石窟寶陽中洞将来] 中国・南北朝時代(北魏) 江口治郎氏寄贈
- 8 《魚介時絵杯》(3枚のうち) 銘羊遊斎 江戸-明治時代 カザールコレクション
- 9 鄭思肖《墨蘭図》 中国・元時代・大徳10年(1306) 阿部コレクション
- 10 重要文化財《銅 湯瓶》 鎌倉時代 田万コレクション

日本国宝展

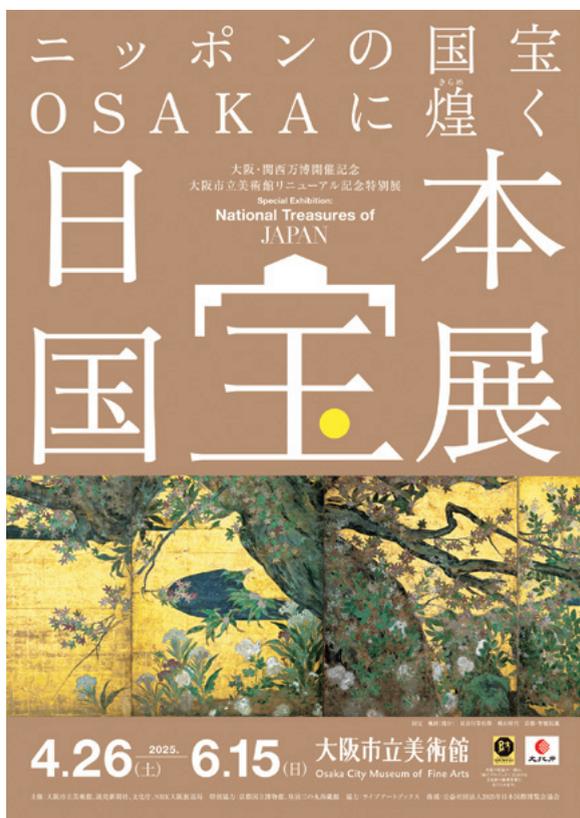
National Treasures of JAPAN

2025年 4月26日(土) ~ 6月15日(日)

今年4月13日、ついに大阪の地で二度目となる国際博覧会が開幕します。1970年の大阪万博では会場内に美術館が建設され、「万国博美術展」という、日本の美術はもとより各国から借りてきた世界各地の美術品を展示した、まさしく万国の美術展覧会が催されました。今回の万博では、会場内にそのような展覧会は予定されていませんが、当館では世界各国から日本を訪れる方々、そして全国から大阪に来られる日本のみなさまにとっての文化芸術のゲートウェイとなるべく、「日本国宝展」を開催することといたしました。国宝作品によって日本の美の

歴史を辿るとともに、大阪で初めて開催する国宝展であることを記念し、大阪ゆかりの国宝を一堂にご紹介します。

出品されるのは国宝ばかり約130件(参考出品を除く)。縄文から江戸まで、土偶や金印、「伝源頼朝像」や狩野永徳筆「唐獅子図屏風」など、教科書でみた、あの国宝が大阪に集結します。大阪ではかつてない規模かつ贅沢な構成で、日本の美の神髄に迫る「日本国宝展」。会期中は頻繁に展示替えが行われますので、お目当ての作品の展示期間にご留意いただくとともに、一度と言わず二度、三度とご来場いただけますと幸いです。



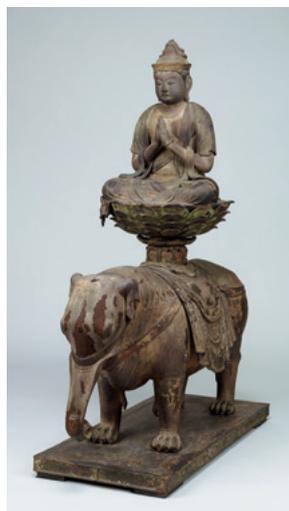
2



3



4



6



5



7



1 本展先行チラシ

- 2 国宝 金印「漢委奴國王」 弥生時代・1世紀 福岡市博物館蔵 【展示期間:4月26日~5月7日】
- 3 国宝 火焰型土器 縄文時代中期・前5400~4500年前 新潟・十日町市(十日町市博物館保管) 【通期展示】
- 4 国宝 伝源頼朝像 鎌倉時代・13世紀 京都・神護寺蔵 【展示期間:6月3日~6月15日】
- 5 国宝 色絵雑香炉 野々村仁清作 江戸時代・17世紀 石川県立美術館蔵 【通期展示】
- 6 国宝 普賢菩薩騎象像 平安時代・11~12世紀 東京・大倉集古館蔵 【通期展示】
- 7 国宝 日月四季山水図屏風 室町時代・15~16世紀 大阪・金剛寺蔵 【展示期間:5月20日~6月15日】

ゴッホ展 家族がつないだ画家の夢

2025年7月5日(土)～8月31日(日)

フィンセント・ファン・ゴッホ(1853-1890)の作品は、どのように今日まで伝えられてきたのでしょうか。本展では、家族が受け継いできたコレクションに焦点を当てます。

ファン・ゴッホの画業を支え大部分の作品を保管していた弟テオは、兄の死の半年後に生涯を閉じ、テオの妻ヨーが膨大なコレクションを管理することとなります。ヨーは、義兄の名声を高めることに人生を捧げ、作品を展覧会に貸し出し、販売し、膨大な手紙を整理して出版しました。その息子フィンセント・ウィレムは、コレクションを散逸させないため、フィンセント・ファン・ゴッホ財団をつくり、

美術館の設立に尽力します。

アムステルダムファン・ゴッホ美術館には、画家フィンセント・ファン・ゴッホの約200点の油彩や500点にのぼる素描をはじめ、手紙や関連作品、浮世絵版画などが所蔵されています。そのほとんどは1973年の開館時に、フィンセント・ファン・ゴッホ財団が永久貸与したものです。本展では、ファン・ゴッホ美術館の作品を中心に、ファン・ゴッホの作品30点以上にくわえ、日本初公開となるファン・ゴッホの手紙4通なども展示し、家族が守り受け継いできたコレクションをご紹介します。



1



2



3



4

- 1 フィンセント・ファン・ゴッホ《画家としての自画像》1887年12月-1888年2月
油彩、カンヴァス 65.1×50cm ファン・ゴッホ美術館、アムステルダム(フィンセント・ファン・ゴッホ財団) Van Gogh Museum, Amsterdam (Vincent van Gogh Foundation)
- 2 フィンセント・ファン・ゴッホ《グラジオラスとエゾギクを生けた花瓶》1886年8-9月
油彩、カンヴァス 46.5×38.4cm ファン・ゴッホ美術館、アムステルダム(フィンセント・ファン・ゴッホ財団) Van Gogh Museum, Amsterdam (Vincent van Gogh Foundation)
- 3 フィンセント・ファン・ゴッホ《種まく人》1888年11月
油彩、カンヴァス 32.5×40.3cm ファン・ゴッホ美術館、アムステルダム(フィンセント・ファン・ゴッホ財団) Van Gogh Museum, Amsterdam (Vincent van Gogh Foundation)
- 4 「傘を持つ老人が描かれた、フィンセント・ファン・ゴッホからアントン・ファン・ラッパルトに宛てた手紙」1882年9月23日頃
ファン・ゴッホ美術館、アムステルダム(フィンセント・ファン・ゴッホ財団) Van Gogh Museum, Amsterdam (purchased with support from the Vincent van Gogh Foundation, the Mondriaan Fund, the Ministry of Education, Culture and Science, the VSBfonds and the Cultuurfonds)

所蔵作品の貸出

他館への貸出を予定している当館の所蔵作品です。展示期間などの詳細は各施設のHPまたはSNS等をご確認ください。

上村松園《晩秋》(住友コレクション)

大阪中之島美術館
2025年3月29日(土)~6月1日(日)

「生誕150年記念
上村松園展」



郭忠恕《明皇避暑宮図》(阿部コレクション)ほか

京都国立博物館
2025年4月19日(土)~6月15日(日)

大阪・関西万博開催記念
特別展
「日本、美のるつば
—異文化交流の軌跡—」



SNSのご案内

YouTubeで内藤栄館長のメッセージ動画をご覧ください。



【大阪市立美術館】リニューアルオープン100日前 館長メッセージ

X (旧Twitter)、Instagramでは展覧会・イベント情報のほか、大阪市立美術館にまつわるウラ話なども発信しています。



X (旧Twitter)

Instagram

YouTube

皆様のフォローを
お待ちしております。

キャラクターが
生まれます！

リニューアルオープンに合わせて、当館のキャラクターが新たに誕生します。「ひらかれたミュージアム」を目指し、作品や美術館の魅力をわかりやすくお伝えしていく予定です。キャラクターも利用者の皆様とのコミュニケーションが待ち遠しそう。どうぞお楽しみに！



◆表紙作品紹介

《青銅鍍金銀羽人》中国・後漢時代1-2世紀 山口コレクション

耳先が長く、面長の異様な容貌を持つこの像は、不老不死を得た仙人です。中国の後漢時代に作られました。当初は、両膝に器物を挟んでおり、それを両手で支えていました。類品が、洛陽と西安の博物館に一点ずつ所蔵されているのみで、世界的に稀少な作品です。

撮影：佐々木香輔

大阪市立美術館 天王寺公園内

Osaka City Museum of Fine Arts

〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82
tel. 06-6771-4874 fax. 06-6771-4856
<https://www.osaka-art-museum.jp>

開館時間＝9:30～17:00(入館は16:30まで)
休館日＝月曜日(ただし月曜日が祝日の場合は翌平日)



交通案内:Osaka Metro 御堂筋線・谷町線、JR「天王寺」、近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」、阪堺電軌上町線「天王寺駅前」下車、または大阪シティバス「あべの橋」下車、北西へ約400m